

2019 年度 都立府中東高校 BOXING部

●第18回 全日本女子ボクシング選手権大会 結果報告

星野佳亜奈（2年） ジュニア女子 フェザー級 祝！準優勝！！

会 場：北ガスアリーナ札幌46

日 程：令和元年 10月 16日（水）～ 20日（日）

2回戦 対 宮越伶音（石川県小松商業高校）RSC勝1R0分28秒

準決勝 対 北崎天寿（熊本県九州学院高校）WP勝5-0

決 勝 対 木村萌那（岐阜県岐阜工業高校）WP負0-5



星野の今回の全日本女子最低限の目標はベスト4。もちろん大会に出場するからには優勝は狙いますが、来年も見据えてベスト4まで勝ち進み、着実にキャリアを積みたいという気持ちからの目標設定です。前回大会は2回戦で敗退しました（対戦相手は今年度の決勝の相手、木村萌那選手でした。ちなみに木村選手は前回大会に続き、2連覇です）。昨年度は星野千梨菜（H30年度卒）と一緒に参加したことで、大会の流れを知り、試合への気持ちの作り方など試合に対する心構えのようなものを少しは身につけたと思います。今大会は優勝を目指しつつ、勝ちにこだわりながら技術・メンタルのスキルアップを目指しました。

大会初戦の2回戦は、前に出てプレッシャーをかけて1R、0分28秒RSC勝で早く終わりました。手を出して下がらせる展開にもっていき、できるだけ早く終わらせるという前日に打ち合わせした通りの内容で進めることができました。

準決勝は1Rにカウントを取ったものの、2Rにカウントを取られ、3R勝負の展開。しかしこれも前日に打ち合わせした通りの想定内の展開で、前日の打ち合わせ通り、3Rはしっかりとポイントを引き寄せ、5-0のポイント勝ち。2Rにカウントを取られたとき、また3R勝負の展開になっても慌てず、落ち着いて前日の打ち合わせ通り、前に出て相手を攻めることができたのは大したもの。このように少しずつキャリアを重ねていきます。

決勝で木村選手のプレッシャーに、前に出ることができず、終始木村選手のペース。ポイントは完全に木村選手でした。しかし全試合をRSCで決勝に進出してきた木村選手相手に3R試合ができたのは収穫です。前日に打ち合わせた攻撃、セカンドで指示した攻撃も見ることができました。観客の多くの人が木村選手のRSC勝と思っていたのではないのでしょうか。それほど実力のある木村選手相手に戦い抜いた経験を必ず活かし、もっともっと練習をして、来年度の大会に戻ってきたいと思います。優勝こそ逃しましたが、本校でキャリアをスタートし、昨年度2回戦敗退から今年度は準優勝。星野の努力の成果です。今まで遠征等でお世話になった先生方、応援して下さる保護者、ありがとうございました。

●チャンピオンたちのメンタルの強さ、そして人の好さ…

今大会で優勝した選手たちは皆メンタルも強い。もちろん試合直前には集中し、緊張感を持った良い表情になりますが、試合前には笑顔が見られ、気が抜けた状態ではなく、程よく力が抜けた状態を作っている姿が全日程を通じて見られました。

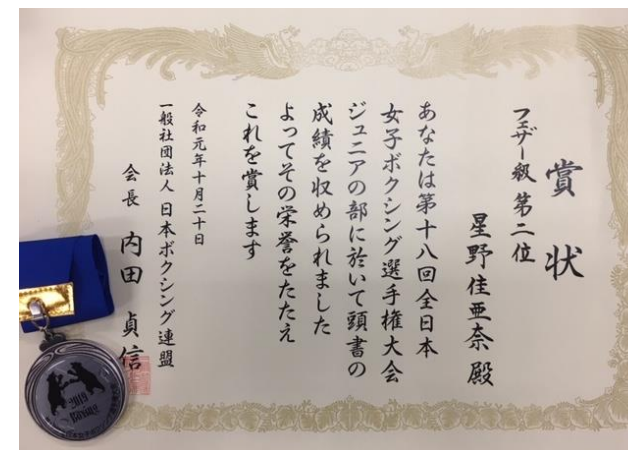
東京の篠原選手（東京：日体大桜華高）は会場で、素晴らしい笑顔でダンスをしている姿が見られました（パラしてごめんなさい...）。勝って当たり前、と思われる中での気持ちの作り方はまさにチャンピオンです。

星野の決勝の相手、木村選手（岐阜：岐阜工業高）。星野の一つ前の試合で決勝を迎える、遠征で顔見知りの吉澤選手（栃木：白鷗大足利高）に、私が「頑張って」とグローブにこぶしを合わせ、（グータッチ）

に行った際、近くにいた木村選手がニコニコしながら私にグローブを差し出してきました。対戦相手の監督なのに...。よりリラックスできている証拠です。普段の挨拶から気持ちの良い選手です。もちろんグータッチをしました。

吉澤選手は絶対優勝するという意気込みの中、試合巧者の若江選手（愛媛県）相手にポイント勝でチャンピオン返り咲き。気持ちが空回りすることなく、決勝の大舞台で実力を発揮できたのは見事です。

3人以外にも大澤選手（埼玉：花咲徳栄高）も、去年千梨菜と決勝を戦った古賀選手（佐賀：高志館高卒、今年はトヨタ自動車からシニアに出場。準優勝でした。）も、みんな毎日笑顔で挨拶をしてくれます。みんなのこの素直に応援したくなる人柄が優勝する強さの一部であり、スポーツマンとしての見本です。素晴らしい保護者、指導陣にも恵まれているのだと思います。



**篠原光（大会最優秀選手賞）、
木村萌那（大会優秀選手賞）、両選手は11月8日から18日までモンゴルで行われるアジアユース選手権に日本代表として出場します。
応援をよろしくお願いします。**